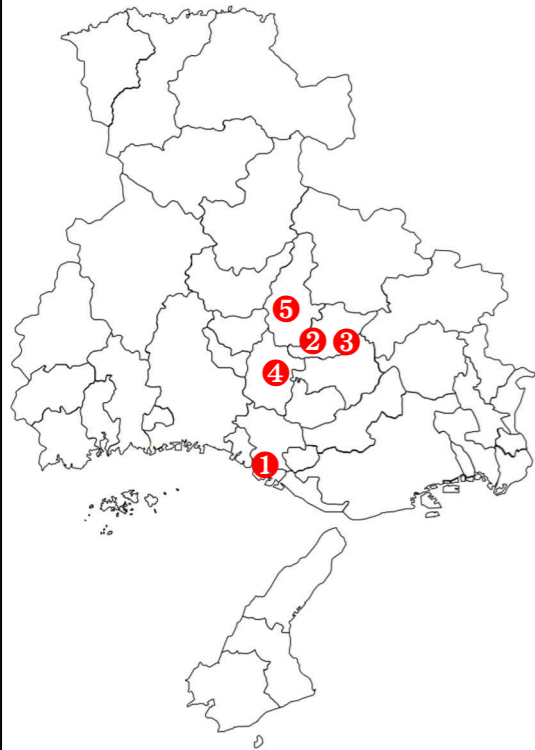


自然光を採り入れるためにつくられた「ノコギリの刃」のような形状の屋根が連なる風景は、織物で栄えた地域の特徴的景観である。  
産業の衰退とともに展示・販売施設に転用されたものもあるが、今も尚まちなかに残る歴史的資産として、地域の歴史を物語る。



## 【登録する建造物】



①



②



③



④



⑤

## 【ノコギリ屋根について】

ノコギリ屋根は近代工場の象徴ともいえる存在で、産業革命当時の英国で、考案された屋根構造である。

織物工場において、採光は、生地の状態や色合いを見るために、直射日光を避けた、安定した照度の明かりが必要で、北側に向けた窓を設け、1日を通して均一の明かりを採り入れようとしていた。

また、屋根に窓が設けることで、広い作業場が確保できる利点があったこともあり、ノコギリの刃の形状の屋根に至った。

広い面積に均等に明かりを採り込むことができる「ノコギリ屋根」、織物産業で繁栄したまちなみを象徴するものである。

## 【工場といえば・・・】

昔の地図では、工場のあるところには、三角屋根と煙突が描かれていたといわれている。現在でも、工場のアイコンといえば同様の形状を示したものがよく使われており、ノコギリ屋根は、工場の象徴とも言える。

## 【織物工場が多い地域は・・・】

西脇市や多可町などは、加古川、杉原川、野間川が流れる地域で、染色に重要な水資源に恵まれており、織物産業に適している地域である。

## 各建造物について

- |   |                      |
|---|----------------------|
| ① | 赤レンガを使用した工場群。現在も操業中。 |
| ② | 倉庫や駐車場に転用されている。      |
| ③ | 焼板を巡らせた外壁や木の格子窓も特徴的。 |
| ④ | 現在は、倉庫として使用。         |
| ⑤ | 山や田園など豊かな自然の中に佇んでいる。 |